



◎評議員會並定時會員總會開催

本會評議員會並第十五回定時會員總會は七月十日午後三時丸ノ内日本俱樂部に於て開催した。定刻に至り水野會長議長席に就き評議員會及會員總會を便宜上併合開會する旨を宣し昭和八年度事務報告、昭和八年度會計報告を承認し次て理事會の決定に係る昭和九年度一般會計歳入出豫算及特別會計歳入出豫算を承認した。議長は評議員會に左の七氏は本會に特殊の關係あるを以て定款第七條に依り特別會員に推薦する旨を告げ之を可決した。

内務省土木局長 廣瀬久忠君
内務技監 青山士君

參謀本部第三部長 山田乙三君
鐵道省運輸局長 前田穰君
内務省土木局第一技術課長 谷口三郎君
京都市長 大森吉五郎君
神戸市長 勝田銀次郎君

次て理事監事互選の件を付議したる處會長一任に決す。更らに總會に評議員互選の件を付議したるに會長一任に決す、議長は之を以て評議員會第十五回定時會員總會を終了したる旨を述べて閉會を宣し散會した。

昭和八年度事務報告は左の如し。

昭和八年度事務報告

昭和八年度ニ於ケル事務ノ概況左ノ如シ

調査事業ニ關スル件

本年九月獨逸「ミュンヘン」ニ於テ開催ノ第七回國際道路會議ニ提出スベキ調査研究事項ハ昨年來斯界ノ權威者三十有餘名ニ委員ヲ委嘱シテ調査セシムル所アリ該委員ハ六部ニ分レテ夫々分擔シ部會ヲ開クコト前後數十回ノ多キニ

及ビ慎重調査ノ結果成案ヲ得タルヲ以テ直ニ國際道路會議事務局ニ提出シタリ右ハ何レ本會議ニ附議セラルベキヲ以テ之ニ依リテ我國ニ於ケル道路工事ニ關スルセメント系鋪裝、瀝青材料、街路又ハ地方道路ノ路面、交通安全ノ確保、車輛ト路面關係及交通車輛等各般ノ事情ト其ノ研究ノ結果トヲ歐米諸國ニ周知セシムルニ至ルヘク我國ニ於ケル路政ノ進展ヲ國外ニ示スヲ得ルハ本會ノ欣快トスル所ニシテ委員諸氏ガ激務ノ傍ラ本事業ノ爲尠ナカラス盡力セラレタルヲ感謝ス尙本調査ハ本邦ニ於ケル最初ノ試ニ屬シ道路問題ニ關スル貴重有益ナル資料ナルヲ以テ「道路資料」トシテ刊行シ況ク之ヲ頒布シタリ。

道路大會開催ノ件

客年十月二十五、二十六ノ兩日ニ亘リ大阪市中ノ島中央公會堂ニ於テ道路大會ヲ開催シタリ參會者ハ實ニ千二百七十五名ノ多キニ達シ提出議案ハ研究報告七件建議事項六十六件ヲ算シタリ、本會ヨリハ會長代理トシテ長岡理事出席シタル外唐澤常務理事ヲ始メ中川(正左)、中川(吉造)、前

川、寛、牧ノ六理事牧野外七幹事出席シタリ其第一日ハ中川(吉造)理事開會ノ辭ヲ述べ會長代理長岡理事ノ挨拶アリ内閣總理大臣、内務大臣、大阪府知事、大阪市長、大阪府市會議長並大阪商工會議所會頭ノ祝辭ニ次テ研究事項ノ報告アリ午餐後建議事項ヲ討論シ第二日ハ地方道路及其ノ交通ノ狀況ヲ視察スルカ爲ニ兵庫方面、京都滋賀方面、奈良方面、和歌山方面ノ四班ニ分レ長岡、中川、寛、前川、牧ノ五理事各班ヲ指揮シテ實地ニ就キ視察シタリ、本大會ハ我國ニ於ケル最初ノ試ナルニモ拘ハラス豫想外ノ盛況ヲ見タルハ多數民衆ノ路政ニ自覺セルノ徵象トシテ寔ニ喜フヘキコトニ屬シ且報告セラレタル研究事項ハ何レモ我國道路技術ノ進展ニ寄與スルコト大ナルモノアルヘク又建議事項ハ何レモ時勢ノ進運ニ伴フ當然ノ要求ト認メ本會ヨリ夫々主管大臣ニ建議シタルヲ以テ之カ實現ヲ期セラルヘク本大會ノ趣旨ハ達成セラレタルモノト謂フベシ本大會ヲシテ克ク所期ノ效果ヲ收メシメタルハ大阪府市當局カ本事業ニ翼賛セラレテ援助セラレタルト視察地ノ各府縣市ガ亦特ニ後

援セラレタルノ致ス所ニシテ深く感謝ノ意ヲ表ス。

國際道路會議加入ノ件

本會ノ目的ヲ達成スル手段トシテ國際道路會議ニ加入スルノ必要ヲ認メ客年八月之カ手續ヲ了シ當該事務局ヨリ入會票ノ送致ヲ受ケタリ之ニ依リ別途報告シタル提出事件ニ關シテハ克ク之カ趣旨ヲ徹底ヲ計ルベク今後モ亦我國道路ヲ海外ニ紹介シテ加入ノ實ヲ擧ケムトス。

道路改良費豫算ニ關スル建議ノ件

昭和九年度豫算ノ編制ニ當リ政府ハ道路改良費豫算ヲ著シク減額スベシト傳ヘラレタルヲ以テ客年十一月二十二日理事會ヲ開キ之カ對策ヲ講ズル所アリ慎重審議ノ結果我國道路ノ現狀ヲ以テシテハ國民生活ニ及ホス損害甚シキモノアルニ不拘政府豫算ヲ減額セムカ遂ニ事業ヲ抑制スルニ至リ産業ヲ萎靡セシメ國民負擔力ヲ低減スルニ至ルヘク殊ニ時局匡救土木事業ヲ廢止スルニ至ラハ農漁山村ノ疲弊ヲ招來シ憂慮ニ堪ヘサルモノアルヲ以テ昭和八年度ト同額ノ道路改良費豫算計上ノ必要ヲ認メ之カ實現ニ關シ内閣總理大

臣及内務大藏兩大臣ニ建議スル所アリタリ幸ニ昭和九年度道路改良費豫算カ二千三百八十萬圓ヲ維持スルヲ得タルハ本會ノ建議亦與リテ力アリシヲ疑ハス。

滿洲國市長招待ノ件

客年十一月滿洲國新京特別市長外三市長等我國ノ市政及道路調査ノ爲メ來朝シタルヲ機トシ一行ヲ招待シテ我國道路ノ現狀ト將來トキ就キ説明シタル上之カ資料ヲ提供シ市内道路ノ視察ニ付案内ノ勞ヲ執リシニ一行ハ頗ル満足シタルモノノ如シ滿洲國道路ノ改良ニ關シテハ本會亦夙ニ其ノ必要ヲ認メ既ニ昭和七年之カ對策ニ付當局ニ建議シタル關係ヲ有スルヲ以テ今後ト雖モ日滿兩國ノ關係ニ鑑ミ路政ニ關シ指導援助ヲ怠ラサムトス。

印刷物ノ發行ニ關スル件

道路技術ニ従事スル職員ノ智識ヲ向上シ一面職務執行ノ利便ヲ圖ル爲「道路職員必携」ヲ發行シ又修路工夫指導ノ爲ニ「修路工夫必携」ヲ發行スルノ計畫ハ前年來之カ調査委員ヲ委囑シテ專ラ編纂ニ力ヲ盡シタルモ著述ノ範圍廣汎

ニ亙ルト事實ノ記述ニ重キヲ置カサルヘカラサルトニ依リ
年度内ニ完成スル能ハサリシハ遺憾トスル所ナリ幸ニ原稿
モ漸ク之ヲ蒐集シタルヲ以テ不日刊行シテ所期ノ目的ヲ達
セムトス。

雜誌發行狀況ニ關スル件

機關雜誌「道路の改良」ハ財界不況ナルニモ拘ハラス相
當ノ成績ヲ收メ其ノ發行部數ハ前年度一ヶ月平均ニ比シ約
五百ノ増加ヲ見ルニ至レリ、今後益々之カ實績ヲ擧ゲルカ
爲記事材料ノ精選ニ力ヲ盡シ内容ノ充實ニ努メ以テ本誌發
行ノ目的ヲ徹底センコトヲ期ス。

會員ノ狀況ニ關スル件

本年三月末現在會員數ハ前年ニ比シ九十二名ヲ増加シ又
賛助員ハ同シク四十八名ヲ増加シタリ、右ハ主トシテ道路
大會ノ開催ニ依リ本會創立趣旨カ普及セラレタルニ因ルモ
ノニシテ欣快ニ堪ヘス今後益々本會趣旨ノ普及ニ努メ以テ
會務ノ發展ヲ期セムトス。

◎全國交通網調査特別委員會

(一)

全國交通網調査委員會の第六回特別委員會は四月二十一
日午後三時半から鐵道協會々館に於て開催し、中川主査、
村井、片岡の各委員大木小森、(代芳澤)の各囑託及び加藤、
笠松、久保代矢野の諸氏出席し前回到引續いて九州の鐵
道、道路關係を詳細に亙り研究し午後五時半散會した。

(二)

六月二十日午後四時半から第七回特別委員會を鐵道協會
々館に於て開催し、中川主査、池田、村井、雪澤、淺野、
武井の各委員大木、小森の各囑託及び加藤、笠松、久保(代
矢野)、都筑の諸氏出席し曩に鐵道協會に於て調査したる當
時の四國地方の交通網狀態に付き村井委員より説明を聽取
したる上、其の後時勢の變遷に伴ふ鐵道、道路、港灣等の
關係を詳細研究し午後七時散會した。

(三)

六月二十七日午後四時半から第八回特別委員會を鐵道協
會々館に於て開催し、中川主査、池田、村井、雪澤、武井

の各委員、大木、小森の各囑託及び加藤、笠松、久保（代矢野）、都筑の諸氏出席し、曩に鐵道協會に於て調査したる當時の中國地方の交通網状態に付き村井委員より説明を聽取したる上、其の後時勢の變遷に伴ふ鐵道、道路、港灣等の關係を詳細研究し午後七時散會した。

◎道路職員講習會

第八回道路職員講習會を七月三十日より八月五日まで日比谷公園市政講堂に開いた。聽講者は道府縣（石川縣を除く）朝鮮總督府、内務省東京、横濱、仙臺、名古屋、大阪、下關各土木出張所、東京市、八王子市、京都市、名古屋、豊橋、岡崎、尼ヶ崎、川崎、横須賀、横濱、平塚の各市、京畿道、慶尙南道、慶尙北道、黃海道、平安南道、樺太廳、關東廳、臺灣總督府、鐵道省等より出席があつた。講習科目及講師は土木行政を廣瀬土木局長、道路行政を武井内務書記官、道路施工を眞田博士、土性論を野坂東大助教授、道路材料を藤井博士、混凝土工を大石内務技師、高級鋪裝

を牧野内務技師、簡易鋪裝を堀東京市技師、鐵筋混凝土工橋を大河戸博士、鋼橋を三浦博士、道路維持を岩崎長野縣土木部長、交通整理を佐藤内務技師擔當せられ尙科外講演として道路工事執行令の改正を田中内務省土木事務官、丹那隧道工事を平山鐵道技師、滿洲新事情を山田陸軍中將、歐米新事情を佐藤鐵道技師、道路の第一義と題して青山内務技師が講述せられた、實地見學として内務省岩淵土木試驗所九號國道中東京市志村地内戸田橋、埼玉縣下蕨町、浦和市地内縣大宮町地内コンクリート鋪裝道路工事及材料製作パンプメーターとコアドリル使用等の實況を參觀した。酷暑の砌にも拘はらず講師聽講者孰れも熱心に勉勵せられたのは道路改良進捗上寔に欣快事である、閉會は五日午後三時舉行し中川（吉造）理事會會長代理として告辭を述べ修了證書を交付した、講習員一同を代表し細江北海道技師答辭を述べて式を終り次で東京市清澄公園謝恩會に臨んだ。而して講習修了したる氏名は左の通りである。

第八回道路職員講習會
講習員職氏名

技師	樺太廳	奧平義行	京都市技師	荒木節二	道路技手兼土木技手	吉田秀一
屬	北海	佐々木久松	京都市技師	水用貞一	土木技手	渡邊亮一
屬	道路技師	細江直矢	京都市技手	清水寛治	道路技手兼土木技手	杉山清一
屬	木村孝助	京都市技手	京都市技手	鹽谷淳	道路技手兼土木技手	弘田嘉宏
屬	吉屋裕	京都市技手	京都市技手	田中清一郎	神奈川縣	小椋貞正
技手	中尾博朋	大阪府	土木書記	三浦義導	道路書記	平山幸介
東京府	北川清	道路書記兼土木書記	坂元照彦	大庭義二	履	秋岡英夫
土木書記	成田守邦	道路書記兼土木書記	小山勝	親谷貞巳	道路技手	志澤義
道路技手	宇佐美勇司	道路書記兼土木書記	高橋尙	後藤正美	道路技手	內堀朝治
道路技手	佐伯隆之	道路書記兼土木書記	有田清美	道	道路技手	吉川喜一郎
道路技手	吉牧兵助	土木書記兼道路書記	田伏徳次	道	道路技手	石原新吉
八王子市土木課長	門倉軍治	道路技手兼土木技手	小澤榮吉	道	道路技手	安達新平
東京市技手	高橋其治	道路技手兼土木技手	菊地愛道	道	道路技手	高橋隆
京都府	井上庄太郎	道路技手	毛利魁	兵庫縣	道路書記	安達彌平
京都府	百田末吉	道路技手	井上庄太郎	兵庫縣	道路書記	佐藤信
京都府	高橋其治	道路技手	井上庄太郎	兵庫縣	道路書記	佐々木正健
京都府	高橋其治	道路技手	井上庄太郎	兵庫縣	道路書記	佐野俊夫

道路技手

鶴井一雄

技手

中島勝照

愛知縣

道路技手

鹽見透

道路技手

武藤一左久

道路書記

尼崎市書記

佐々木義輝

道路書記兼土木書記

前田豐

名古屋市技手

長崎縣

道路技手

渡邊儀一

技手

尾崎利三郎

豐橋市書記

屬

奥村忠

技手

阿部末吉

岡崎市土木技手補

道路技手

大津敏泰

土木書記

東條清三郎

道路書記

新潟縣

道路書記

鈴木寅太郎

土木技手

高橋知

土木技手

土木技手

小野德壽

土木技手兼道路技手

濱野香次郎

道路技手

埼玉縣

道路技師兼土木技師

小堀彌太雄

河内郡明治村助役

野澤順次

山梨縣

道路書記

宗像昇

河内郡明治村書記

谷中僖

道路書記兼土木書記

土木技手補

高木明治

道路書記

板倉重勝

道路技手兼土木技手

群馬縣

道路主事

青木信愛

道路技手

鎌田甚一郎

滋賀縣

道路技手

三輪三郎

土木技手

望月倫一

技手

道路技手

齋藤六

道路技手

小野慶治

道路技手兼土木技手

千葉縣

道路書記

大口卷司

道路書記

川喜田文作

大津市技師

道路書記

大口卷司

道路技手

牧野安平

岐阜縣

道路技手

片岡仁助

堀ノ内宗一

後藤勝三

樋口司羽三

道路技手

喜多庄一

中村甚一郎

關田齋

岸伸

道路技手

內藤斯太郎

松丘義光

廣瀬榮次郎

渡邊信雄

道路技手

瀧澤貢

石川政雄

藤本久光

道路技手兼土木技手	小島六郎	道路書記兼土木書記	佐藤信四郎	道路技手	深谷克海
道路技手兼土木技手	大河原逸郎	道路技手兼土木技手	大原朝三	土木書記	廣島勇
岐阜市技手	田中勝	青森縣	高橋二郎	道路技手	住江兼美
	川村正義	道路書記	森富男	道路技手	內藤錄郎
屬	宮原政雄	道路技手兼土木技手	門間恒雄	岡山縣	
屬	河野好三	山形縣	庄司儀夫	道路書記	吉田政太郎
道路技手	平野幸	道路技手兼土木技手		道路技手	關初彦
道路技手	青沼安之	秋田縣	渡邊貞一	道路技手	小林茂
土木技手	大高廣義	道路書記	小林勇藏	道路技手	琴井谷榮
宮城縣		道路技手	榎寶一	工手	山本香四郎
屬	大窪蕨治	福井縣	高橋貞雄	道路主事	武廣類介
技手	菱沼武雄	屬	野村實	道路技手	楠原剛
技手	遊佐孜	技手	藤野豐次	道路技手	平井基
福島縣		技手	松山隆三	山口縣	
道路書記	鈴木賢三	富山縣		道路書記	難波晴男
道路技手	鷺崎文雄	土木技手兼道路技手	土木技手	道路技手	桂博之
道路技手	大內成之	鳥取縣	竹島清一	和歌山縣	坂井好輔
道路技師	島山英三郎	道路技師			

道路主事 川原義任 道路技手兼土木技手 三橋虎之助 道路技手 西村三郎
 土木技手兼道路技手 萱野忠正 道路技手兼土木技手 原田直喜 道路書記 山本壽彦
 和歌山市技手 尾崎登 福岡市技手 中山三千三 技師 伊藤信

徳島縣

大分縣

技手 木田義一 道路技手 竹中政雄 技師 柴崎幹
 道路技手 藤井勝敏 道路書記 江良豊城 內務技師 梅田金男

香川縣

道路書記 橋本七郎 道路技手 宮川正 內務技手 竹原正規
 土木技手 河村繁 技手 福島毅一 內務工手 武藤信之
 道路技手 妹尾俊三 道路技手 江島憲介 內務工手 齋藤島雄

佐賀縣

愛媛縣

道路主事 堀内正重 道路書記 村松貞甫 內務工手 高村克巳
 道路技手 太田茂次郎 土木技手 池邊清藏 內務技手 藤代源作

熊本縣

內務省横濱土木出張所

高知縣

書記 瀧口利太郎 宮崎縣 伊東定 內務工手 伊藤留三
 道路技手兼土木技手 藤本文吾 屬 土木技師 中島忠次 內務工手 井上徳

福岡縣

道路書記兼土木書記 長澤未 道路技手 松島忠雄 內務工手 渡邊正春
 道路技手兼土木技手 三島千里 鹿兒島縣 三技富七 內務工手 日野一幸

道路技手 古賀多喜治 道路技手 三島富七 內務工手 水町巽

内務省名古屋土木出張所

内務工手 日比正光

内務工手 山田千太郎

内務省大阪土木出張所

内務工手 高井政彦

内務工手 大内重一

内務工手 井上正次

内務省下關土木出張所

内務工手 田代松次

内務工手 金子丑松

内務工手 村瀬茂

内務省新潟土木出張所

内務工手 早川銀之助

内務技手 石原定三

内務省仙臺土木出張所

内務技手 關川精治

内務技手 菊池忠雄

内務工手 高木馨

鐵道省運輸局

技手 小河太郎

京畿道

土木技師 島田多三郎

土木技手 兩宮喜一

土木技手 慶尙南道 手塚昇三

土木技手 元木由夫

慶尙北道

土木技師 矢野眞郷

技手 安部浩資

黄海道

技手 桑野田郎

平安南道

土木技手 橋藤久三

臺灣總督府

記 大賀時雄

關東廳

技師 塚本精太郎

雇 小室八郎

○昭和十年度土木費豫算要求額の決定

見る。

昭和十年度土木費豫算も去る八月七日の内務省議で之が要求額の決定を見八月十五日一般豫算と共に大藏省へ回付せられたさうである。これから大藏省の査定と云ふ難關を潜らねばならぬ譯であるが今其の要求豫算の内容を覗いて

豫算は總額七千二百三十六萬圓で其の内治水關係は、河川費の繰上、一部施行河川の繼續及新規河川の費用八百六十六萬圓、新規砂防費七十一萬圓、府縣施行砂防費の補助四百萬圓、中小河川改良費補助千十七萬圓、町村河川改良費の補助二百萬圓合計二千五百五十四萬圓である。

港灣關係は港灣の線上、追加及新規港灣の費用三百九十萬圓、地方港灣改良費補助三百五十一萬圓、町村港灣改良費の補助六十九萬圓、外に三陸地方海嘯災害豫防施設費補助六十五萬圓其他四十萬圓、合計九百二十四萬圓である。

我々の最も關心を持つ道路關係は特殊國道改良費六十萬圓、其他の道路改修助成費六百八十三萬圓、國道改良費千五百九十七萬圓、府縣道路改良費の補助五百三萬圓、町村道路改良費の補助八百四十六萬圓、其他六十七萬圓、合計三千七百五十六萬圓である。

道路改修助成費六百八十三萬中四百萬圓は府縣をして指定府縣道を改良せしめ之に對する事業費の三分の一の國庫補助を爲すが爲の費用である、高速度路上交通機關の急速なる發達を爲せる今日我國の道路が幅員に於て構造に於て總て時代遅れの狀態にあり爲に路濟の發達を抑制せるの現狀にあることは何人も之を認める所である、産業の振興を企圖するには固より其の方策一にして足らないが、國民の生活行動が屋外に亘る場合必ず使用すべきものは常に道路

であることに鑑みると、道路の改良の如きは其の最も重要なるものであることは多く論ずるの要はないであらう、國道改良費と共に指定府縣道改良費の補助は是非要求額通り實現せしめたいものである。

國道は國の交通幹線であつて人體の大動脈にも譬ふべきものであるから、之が改修は地方區々の計畫に委ねべきではなく、一定の計畫の下に國に於て統一して執行することが極めて必要で且極めて當然であるから、國道改良費は寧ろ之を繼續費として計上することが適當と考へる、十年度豫算に於て其處迄行かなかつた事は甚だ遺憾である。

次に府縣道路及町村道路路費補助であるが、之は河川港灣費の補助の一部と同様窮乏地方に於て之が匡救の爲縣及町村をして事業を執行せしめ、既に時局匡救の爲起工したる事業の適當なる跡仕末を爲さしむる爲の費用である。

政府財政の關係は勿論考慮せなければならぬが地方振興の爲必要な土木事業の豫算は是非最大限の實現を期したいものである。

◎新刊紹介

「自動車事業の經營」

日本交通協會寄贈

昭和八年に於て日本交通協會は帝國自動車協會が開催した自動車交通講習會の講述を速記し之を公刊に付し「自動車事業の經營」と題し發賣したる一書である。素より斯界に於ける各方面の權威たる方々の講述したるものであつて苟くも自動車に關心を有する者の好參考資料たるは言ふを俟たない所である。即ち自動車の製作販賣自動車の發達と將來の見當、國産自動車に對する意見、特殊自動車と其燃

料に就いての陸軍當局の實驗的成績、並國營自動車運輸、乗合自動車貨物自動車等廣汎に涉りての講述である。だが吾人をして望燭の一言を費やすを許さるゝならば各科題の精粗少からずしてある題目に就いて物足らなさを感じしむる所がある尙目下存外に關係當局をして苦慮せしめて居る道路損傷負擔と自動車運輸とに關しては殆んど何人も論及する所なきの感あるは遺憾と云はざることを得ない點であらう、國營自動車に關しては細に入り微に涉つたものであると思はるるが乗合自動車に就いては一段と詳述されたならば一般的に裨益をもたらす所が少なくない。(日生)

人間の住居も次第々々に上空に向つて發達する従つて航空路も發達しなければならぬ理である。シナリオ、メトロポリスの光景が夫れてあるが水の深さによつて魚類も其種を異にし各其遊泳のコースがある、水面近き處から水深の順に其種類を見ると(一)ボラ、マツカサウオ、アジ、アラザメ、サバ、カタクチイワシ、マイワシ、ヒメジ、トビウラ、カツオ、マンボウ、シビレエヒ、コノシロ、カジキ、サンマ、(二)ウミタナゴ、アカエビ、インダヒ、タチウラ、アナゴ、サワラ、クロダヒ、キダヒ、マダヒ、ハモ、(三)ホウボウ、ヒラメ、マナガツオ、アマタヒ、スギキ、ブリ、キハダ、マダロ、ビンナガ、(四)スケトウダラ、タラ、オヒヨウ、バラメヌケ、アラ、ムツ、ギス、メバチ、(五)イタチウラ、キンメタヒ、ラブカ、ギンザメ、ツノザメ(六)ホウネンエソ、チヨウチンアンコウウナギ、ホウライエツ、七カウロフリネ、ヒゲ、ユーリフアリンイス、(八)ビクテイス、リオセタス、サリコフアリンクス、で最深の處は五〇〇〇米に及ぶとのことである。